

# 阿弥陀寺と杉谷善住坊

## 阿弥陀寺の結界石

高島市新旭町旭(堀川)に所在する阿弥陀寺は、古くは明徳2年(1391)9月28日の奈良の西大寺末寺帳にその名が記されています。現在は、一棟の庫裏を残す阿弥陀寺ですが、足利尊氏や織田・豊臣氏から寺領の寄進を受けるなど、かつては大規模な寺院であったことが伺えます。その痕跡を今に伝えるものとして、かつて寺域の東西一町(約100m)、南



阿弥陀寺 宝篋印塔と結界石

北一町半(約150m)の四方に立てられていた結界石(寺域の境界を示す石)が、境内地に現在残されています。明和(1764)1772年間の年号が刻まれた宝篋印塔とよばれる仏塔を中心に、その四隅に計4基の結界石が建てられています。表面には、梵字と共に多聞天、持国天、增長天、広目天と呼ばれる四天王が刻まれ、その下部には「高島郡阿弥陀寺」と刻まれています。これらの石造物は、かつての阿弥陀寺の存在を今に伝えますが、この阿弥陀寺には歴史上の人物である織田信長にまつわる逸話が残っています。

## 織田信長の狙撃

織田信長は、元亀元年(1570)4月に越前朝倉氏への攻撃中に浅井長政の裏切りにより窮地に追い込まれ、朽木谷を通って京都に撤退します。この朽木越えで京都に逃げ帰った翌月、京から岐阜城に戻ろうとした際、信長は近江と伊

勢を結ぶ千草越とよばれる峠道(東近江市)で狙撃されます。

『信長公記』と呼ばれる信長の行動を記録した資料には、「鉄砲の名手であった杉谷善住坊は、六角氏の依頼を受け、千草峠を通過しようとする信長をわずか12・13間(20m程)の距離から鉄砲2発の銃弾を放った。このときは信長の身を少しかすめただけで終わり、信長は5月21日に岐阜へ無事帰還を果たす。そして、信長狙撃に失敗した善住坊はいち早く姿をくらました。」と、その時のようすが記載されています。

## 阿弥陀寺と住谷善住坊

その後、善住坊は高島郡まで逃げ延び、堀川村の阿弥陀寺に隠居していました。信長は逃げた善住坊を徹底捜査し、天正元年(1573)9月に、信長の家臣で新庄城の城主として高島郡の支配を命じられていた磯野員昌によって捕らえられ、岐阜に送られ、極刑に処せられたとされています。

阿弥陀寺に残る、戦国時代の逸話や多くの石造物は、往時の寺の姿を今に伝えながら静かにたたずんでいます。

文化財課 ☎(25)8559



阿弥陀寺 位置図

## 編集感

今月号の表紙は3年ぶりに開催された栗マラソン2kmのスタートの瞬間です！当日は晴天に恵まれ、さわやかな秋風を体いっぱいを受けながら沢山のランナーがメタセコイア並木道を走り抜けました。大会のようすは本誌P13タウンピックのコーナーに写真を掲載していますので、表紙と合わせてぜひご覧ください。(Y)